

# 環境報告書の基本項目

83 外部の方々との意見交換会

85 用語集

86 環境報告書ガイドライン対照表

87 編集後記



## 外部の方々との意見交換会



2018年7月2日（月）に、本環境報告書の原案に関する「外部の方々との意見交換会」を開催しました。参加者は、写真左から千葉大学附属幼稚園 PTA 会長の渡邊貴臣様、NPO 法人環境文明 21 顧問の加藤三郎様、千

葉市立稲毛高校 2 年で生徒会副会長の青木知葉様、同 2 年で生徒会会計の吉成唯様、千葉県環境生活部環境政策課政策室長の中村敏彦様の 5 名です。司会は、千葉大学環境管理責任者（教員系）の倉阪秀史が務め、今年度の

環境報告書編集長の文学部 3 年浅輪光、副編集長の園芸学部 2 年小出ひなた、同理学部 2 年渡邊道哉が同席しました。



一まず、千葉大学の取り組みについてのコメントをお願いします。

加藤：千葉大学の取り組みは、ひとことではすばらしいということにつきます。とくに学生が主体的に活動している点です。社会に出ていったときにならず大きな力になると思います。ただ、一点だけ気になる点が温暖化への取り組みです。2015 年に採択された温暖化防止のための「パリ協定」では、今世紀後半には温室効果ガスを実質ゼロにするという厳しい目標が掲げられています。千葉大学でも温室効果ガス実質ゼロに向けて長期的な取り組みを始めるべきではないでしょうか。

渡邊：まず、大学や学生がここまで動いていることを知りませんでした。附属学校でも大学の取り組みを知ることができれば、千葉大学に魅力を感じて進学しようとする児童や生徒が増えていくのではないのでしょうか。わたしからも保護者の中で広げていければいいなと思います。

中村：これだけのことに取り組んでいると言うことに感銘を受けました。とくに、学生中心で進めていることがすごかったです。県庁では、来週から環境 I SO 学生委員会のメンバーをインターンシップ生として受け入れる予定です 1)。なぜこのような活動に参加したのかについてももう少し詳しく聞いてみ

たいと思います。サークル活動のような要素も有り、NPO 法人としても活動しています。学生の自由な立場を活用して、大学の環境マネジメントを進めているのがおもしろいところだと思います。

青木：千葉大学がこれほどのことをやっていると知って素晴らしいと思いました。学生がこのような活動を進めているのはおそらく「当たり前」ではなく、「特別」なのだと思います。環境報告書の報告対象者として「高校生」も掲げられていますが、高校生はほとんど知らないと思います。各高校に報告する活動も進めればいいのかではないでしょうか。



▲加藤三郎様



▲中村敏彦様



▲渡邊貴臣様

吉成：大学で環境報告書をつくっていることに驚きました。また、学生が150名以上も関わっていることにびっくりしました。環境報告書の各ページをみると、学年も学部も違う人が一緒に作業をされています。このような横断的な取り組みは大学の中でもめずらしいのではないのでしょうか。

ーありがとうございます。すでに少し言及いただいた方もいらっしゃいますが、今年度の環境報告書についてコメントをいただければと思います。

加藤：まず、報告書として、非常に質がいいと間違いなく言えます。ここに書いてある用語などについても、むずかしい内容はありませぬ。ただ、先に述べた「パリ協定」は、日本にとってベリーの黒船やポツダム宣言に匹敵する大きな節目だと思います。その点から、環境報告書においてパリ協定について何も言及されていないのは問題です。パリ協定ができた段階で大学の環境エネルギー方針 (p.4) を見直そうという動きが出てきて欲しいと思います。また、大学のエネルギー消費量も5年間でほとんど変わらない数値となっていますが (p.30)、これを大幅に下げることができればいいのかを考えるべきです。

渡邊：わかりやすい環境報告書だと思います。気になったところとしては、れじぶー基金 (p.38) で作成したオリジナルグッズについてどれくらいの量を作成して、どれくらい販売したのかがわかれば良いと思いました。また、駐輪台数調査の結果が書かれていますが (p.39)、これをもっと改善するために何をすべきかについても知りたいです※1。

中村：報告書作成の趣旨を説明すると、報告内容の意図がよりわかりやすくなりますし、パリ協定にも必然的にふれることになると思います。樹木の本数やその炭素吸収量などのストック情報も記載してはいかがでしょうか。OBインタビューを仕事面から掘り下げなど、学生が取り組むことによる教育的効

果も示すと、報告書により深みが出ると思います。持続可能な開発目標 (SDGs) のシンボルマークを報告書に記載するのは面白い試みですが、各項目とSDGsの関係性がわかるようさらに工夫をして欲しいと思いました。

青木：「〇〇をめざします」とか「図るようになります」という記述がありますが、具体的に何をするのが気になってしまう記述がありました。細かい点ですが、42ページの「春の花壇」という写真があまり春らしくないように思いました※2。

吉成：学生委員会をNPO法人化したという記述がありましたが (p.49)、実際に何ができるようになったのかがわかりませんでした※3。環境意識アンケート結果をウェブで同時公開するというのですが、実際に意識している人がどうしているのかについても聞いたらいいと思いました。

ーありがとうございます。修正できるところは修正して公開したいと思います。最後に千葉大学の今後の取り組みに期待する点を伺いたいと思います。

加藤：これから持続可能な社会をつくっていかねばなりません。千葉大学は前から『公共研究』2) を刊行して関連する議論を進めています。いろんな形で反映して欲しいと思います。また、教育学部でいい先生を育成して欲しいと思います。さらに、最近、発達障害の児童数が増えています。男性の精子の数が激減しているという報告もあります。化学物質の人体影響について千葉大でも研究をさらに進めて欲しいです。今日も、プラスチックでつくったうちわを配布していただきましたが、マイクロプラスチックの話が世界の懸念になっています。新しい課題に鋭敏に取り組んでいただきたいです。

渡邊：大学や学生がこれだけの取り組みをやっているということを知らないという事実があります。知ってもらうことが重要です。

周りの大学が真似するとか、興味をもって受験する人を増やすとか、さまざまな効果が期待されます。まず、附属学校から広げることができないのではないかと思います。

中村：千葉大学には、総合大学として幅広い分野で、優秀な先生方がたくさんいらっしゃいます。千葉大学がそこにあるというだけで、様々な面で地域により影響を与えているのですが、特にこの知的集積の存在は、大変心強いものです。日々各分野で世界と競い合っていていただくとともに、大学の社会貢献のひとつとして、その成果を今後より一層地域に還元していただければありがたいと思います。環境分野でも、引き続きご指導をお願いいたします。

青木：この活動が、今後、衰えることなく継続して欲しいと思いました。高校生向けの出張授業を行ってどれだけ高校生に響くのかは想像つかないですが、高校生に広げる努力もして欲しいと思います。

吉成：環境ISO学生委員会の人がすごく頑張っていることはわかりますが、それ以外の学生がどのように活動をしているのかが気になりました。この取り組みを近隣の高校生にも広めて欲しいと思います。

- .....
- 1) 「環境マネジメントシステム実習III」のカリキュラムとして行うインターンシップ生の受け入れをお願いしております。
- 2) 大学院社会科学研究院政治学政策学部門の教員が中心となって運営する千葉大学公共学会が発行する学術誌
- .....

編集部より

- ※1 駐輪状況改善のための対策について追記しました。
  - ※2 写真を差し替えました。
  - ※3 NPO法人化に伴う活動の変化について追記しました。
- また、単純ミスにかかるご指摘をいただき、修正しました。その他のご指摘は次年度以降の参考とさせていただきます。



▲青木知葉様



▲吉成唯様



# 用語集



|  |  |
|--|--|
| <b>ISO14001・ISO50001</b><br>p1, 3, 9, 10, 48               | 国際標準化機構（International Organization for Standardization：ISO）が定めた国際規格。ISO14001 は環境マネジメントに関する規格で、ISO50001 はエネルギーマネジメントの規格 |
| <b>OUTPUT</b><br>p76, 77                                   | 事業活動の結果、生産した商品やサービス、排出した化学物質、水、廃棄物などの物質  |
| <b>INPUT</b><br>p76, 77                                    | 事業活動で使用する資材、ガス、重油、水、化学物質、紙、包装材などの物質量   |
| <b>環境・エネルギーマネジメントシステム (EMS・EnMS)</b><br>p3, 4, 7, 8, 9, 78 | → p.7 参照   |
| <b>環境関連科目</b><br>p21-23, 69                                | → p.21 参照<br>「大気・水質・土壌・天然資源・植物・動物・人およびそれらの相互関係を含む、組織の活動を取り巻くものであり、組織内の者から地球規模の生態系にまで及ぶ」という定義に関連した科目                    |
| <b>環境ISO学生委員会</b>  | → p.10 参照  |
| <b>環境会計</b><br>p77   | 環境保全のために要したコスト（環境保全コスト）とその活動の効果（環境保全効果）を認識し客観的な数値を用いて定量的に測定する会計システム  |
| <b>環境目的・環境目標・実施計画（目目実）</b><br>p7, 8, 48, 51, 69            | → p.7 参照   |
| <b>基礎研修</b><br>p7, 10, 48                                  | → p.48 参照<br>全ての構成員および準構成員に対して、主に千葉大学の環境・エネルギーマネジメントシステムや環境への取り組みについて周知するための研修。主に学生委員会が講師を担当する                         |
| <b>キャンパスマスタープラン</b><br>p26, 30, 41                         | 学内の施設・環境の将来像を示す骨格であるとともに、今後の施設環境の整備や活用に関する具体的な目標を定める上で指針となるもの。2017年度に更新された   |
| <b>グリーン購入</b><br>p4, 37, 74                                | 製品やサービスを購入する際に製造段階での環境負荷の小さいものを優先的に選択すること  |
| <b>構内事業者</b><br>p8, 37, 45, 48                             | → p.45 参照<br>千葉大学生協協同組合、レストランコルザ、ショップ大和屋など、千葉大学構内で事業を行っている業者   |
| <b>COGOO</b>   | → p.39 参照  |
| <b>コミュニティガーデン</b><br>p53, 56                               | 地域住民が共同で企画・運営・維持管理する庭。千葉大学は松戸地区と西千葉地区において、学生と教職員が地域住民と交流しながら運営している   |
| <b>サステイナブルキャンパス推進協議会 (CAS-Net JAPAN)</b><br>p14, 61        | 国内のサステイナブルキャンパス構築の取り組みを推進し加速させ、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的とし、大学間の情報共有を活性化するための組織。2013年に発足                                |
| <b>持続可能な開発目標 (SDGs)</b><br>p12                             | 2015年の国連総会で採択され、環境の持続可能性確保に重点を置いて検討された国際目標のことで、持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲット（達成基準）からなる                               |
| <b>省エネルギー（会議）</b><br>p8, 30, 31                            | → p.8 参照   |
| <b>千葉大学化学物質管理システム (ククリス)</b><br>p11, 26, 43                | → p.43 参照  |
| <b>内部監査</b><br>p3, 7, 10, 48, 66-68                        | 環境・エネルギーマネジメントシステムの運用状況を、監査基準を用いて組織的・実証的・定期的・客観的な視点から内部組織によって評価すること。学生委員会と教職員がチームを組んで実施する                              |
| <b>NetFM システム</b><br>p11, 74, 75                           | → p.74 参照<br>備品や化学物質を含むすべての部品、部屋などの使用状況を把握することを目的として開発した千葉大学独自の情報管理システム  |
| <b>普遍教育</b><br>p10, 21, 22                                 | 千葉大学内で開講されている英語、初修外国語、情報リテラシー、スポーツ・健康、教養コア、教養展開科目で構成され、国際化・情報化した現代社会において、あらゆる学習・研究活動の基盤として必要な基礎的で共通な技能と知識を習得するための科目    |
| <b>リ・リパック</b><br>p37, 40                                   | → p.40 参照<br>株式会社ヨコタ東北が製作するプラスチック素材の環境配慮型容器。熱圧着により表面にフィルム加工がされており、使用後はフィルムを剥がすことで、洗浄せずに回収、リサイクルができる                    |

# 環境報告書ガイドライン対照表

| 環境報告ガイドライン（2012年版）における項目              | 本報告書にかかる対象項目                                       | 項目ページ                |
|---------------------------------------|--|----------------------|
| <b>環境報告の基本的事項</b>                     |  |                      |
| 1. 報告にあたっての基本的要件                      |  |                      |
| (1) 対象組織の範囲・対象期間                      | 目次   | 1                    |
| (2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異                  |  |                      |
| (3) 報告方針                              |  |                      |
| (4) 広告媒体の方針等                          | 裏表紙  | 裏表紙                  |
| 2. 経営責任者の提言                           |  |                      |
|                                       | 学長からのメッセージ   | 5-6                  |
| 3. 環境報告の概要                            |  |                      |
| (1) 環境配慮経営等の概要                        | 大学概要、千葉大学のEMS・EnMSの概要                              | 2, 7-8               |
| (2) KPIの時系列一覧                         | エネルギー消費量、紙類購入量、廃棄物排出量、PRTR法対象物質使用量                 | 30, 33, 34, 43       |
| (3) 個別の環境課題に関する対応総括                   | 環境目的・環境目標と達成度評価一覧                                  | 69-73                |
| 4. マテリアルバランス                          |  |                      |
|                                       | 物質収支（マテリアルバランス）                                    | 76                   |
| 「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を示す情報・指標      |  |                      |
| 1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等                |  |                      |
| (1) 環境配慮の方針                           | 千葉大学中期計画、環境・エネルギー方針                                | 3, 4                 |
| (2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等                 | 千葉大学中期計画、学長からのメッセージ、達成度評価一覧、学長によるフィードバック           | 3, 5-6, 69-73, 78-81 |
| 2. 組織体制及びガバナンスの状況                     |  |                      |
| (1) 環境配慮経営の組織体制等                      | 千葉大学のEMS・EnMSの概要、環境ISO学生委員会の仕組み、学生主体によるEMS・EnMSの運用 | 7-8, 10, 48          |
| (2) 環境リスクマネジメント体制                     | 千葉大学のEMS・EnMSの概要                                   | 7-8                  |
| (3) 環境に関する規制等の遵守状況                    | 環境関連法規制等の順守状況                                      | 74-75                |
| 3. ステークホルダーへの対応の状況                    |  |                      |
| (1) ステークホルダーへの対応                      | 第3章、外部の方々との意見交換会                                   | 47-64, 83-84         |
| (2) 環境に関する社会貢献活動等                     | 特集記事、附属学校における環境教育、第2章                              | 13, 27-28, 29-46     |
| 4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況             |  |                      |
| (1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等         | 構内事業者の環境への取り組み、関連事業者へのインタビュー                       | 45, 46               |
| (2) グリーン購入・調達                         | 循環型キャンパスを目指して                                      | 37                   |
| (3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等                | 最先端の環境研究の紹介、第2章                                    | 16-20, 29-46         |
| (4) 環境関連の新技术・研究開発                     | 最先端の環境研究の紹介  | 16-20                |
| (5) 環境に配慮した輸送                         | -  | -                    |
| (6) 環境に配慮した資源・不動産開発 / 投資等             | 環境会計   | 77                   |
| (7) 環境に配慮した廃棄物処理 / リサイクル              | 循環型キャンパスを目指して                                      | 33-40                |
| 「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標 |  |                      |
| 1. 資源・エネルギーの投入状況                      |  |                      |
| (1) 総エネルギー投入量及びその低減対策                 | 低炭素キャンパスを目指して、物質収支                                 | 30-32, 76            |
| (2) 総物質投入量及びその低減対策                    | 低炭素キャンパスを目指して、安心安全社会への取り組み、物質収支                    | 30-32, 43-44, 76     |
| (3) 水資源投入量及びその低減対策                    | 低炭素キャンパスを目指して、物質収支                                 | 30-32, 76            |
| 2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）               |  |                      |
|                                       | 循環型キャンパスを目指して                                      | 35-37, 39            |
| 3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況                 |  |                      |
| (1) 総製品生産量又は総商品販売量等                   | -  | -                    |
| (2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策                | 低炭素キャンパスを目指して、物質収支                                 | 30-32, 76            |
| (3) 総排水量及びその低減対策                      | 低炭素キャンパスを目指して、物質収支                                 | 30-32, 76            |
| (4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策           | 環境関連法規制等の順守状況、物質収支                                 | 74-75, 76            |
| (5) 化学物質の排出量、移動量及び低減対策                | 安心安全キャンパスを目指して、環境関連法規制等の順守状況、物質収支                  | 43-44, 74-75, 76     |
| (6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策         | 循環型キャンパスを目指して、物質収支                                 | 33-40, 76            |
| (7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策                 | 環境関連法規制等の順守状況                                      | 74-75                |
| 4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況           |  |                      |
|                                       | 最先端の環境研究の紹介、自然共生キャンパスを目指して、植物を通じた復興応援活動            | 20, 41-42, 53        |
| 「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標       |  |                      |
| 1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況                 |  |                      |
| (1) 事業者における経済的側面に関する状況                | 環境会計   | 77                   |
| (2) 社会における経済的側面に関する状況                 | 環境会計   | 77                   |
| 2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況                 |  |                      |
|                                       | 内部監査の実施、環境関連法規制等の順守状況                              | 66-67, 74-75         |
| その他記載事項等                              |  |                      |
| 1. 後発事象等                              | -  | -                    |
| 2. 環境情報の第三者審査等                        | 外部の方々との意見交換会                                       | 83-84                |



## 編集後記



### 環境ISO学生委員会 環境報告書2018 編集部より

「千葉大学環境報告書2018」をご閲覧いただきありがとうございます。千葉大学の環境報告書は今回で14冊目の発行となります。10年を超える歴史がある中で、よりよい環境報告書となるよう、企画からデザインの細部に至るまで改善を重ねてきました。本報告書の作成にあたっては、読者の皆様にとっての「読みやすさ」を追求し、PDCAサイクルに則った構成や章ごとの目次の導入などによって、全体の大きな流れと部分のまとまりが意識しやすいづくりを目指しました。

内容に関しては、千葉大学の環境活動をもれなく掲載できるよう努めました。環境負荷削減の取り組みから、環

境教育・研究、地域や企業との交流、さらにはSDGsとの関連まで、幅広い内容を扱っています。地域社会や関係者の方々・環境活動に従事する皆様に対するコミュニケーションツールとして、千葉大学の環境活動への理解を深める助けとなれば幸いです。

最後となりますが、本報告書の作成にご協力いただいた、環境ISO事務局をはじめとする多くの教職員の方々、環境ISO学生委員会のメンバー、デザイナーの方々、その他すべての関係者の皆様に御礼申し上げます。

浅輪光 編集長（文学部3年）



▲（上段左から）小出ひなた、田中真由、渡邊道哉、田中ひかる、浅輪光、志賀萌花

### 環境管理責任者より

千葉大学では2003年10月に行われた当時の磯野可一学長によるキックオフ宣言によって、学生主体での環境マネジメントシステムの構築と運用が始まりました。15年を経過して、今年、世界の大学の環境への取り組みを評価する国際グリーンガウン賞の学生の参画部門を千葉大学が受賞することができました。この環境報告書も、編集長の浅輪くんを中心とする環境ISO学生委員会メンバーと工学部のデザインチームが中核となって作成されています。教職員は、データの収集、コンプラ

イアンスに関する事項を担当するとともに、関連記事の執筆を行っています。

7月2日には、関係者に皆さんにお集まりいただき意見を伺いました。その結果に基づいて内容を改善しました。今年度対応できなかった点は、次年度以降に生かします。今後とも、国際的な受賞大学に恥じない内容の運営を継続していきたいと考えております。

倉阪秀史 大学院社会科学研究院教授  
（環境管理責任者＜教員系＞）



千葉大学の環境管理責任者として、「環境報告書2018」の作成にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。本学の環境活動の特色でもある学生と教職員との協働により作成されております。

特集にも記載させていただきましたが、千葉大学環境ISO学生委員会が企業とのコラボによるecoプロジェクトを開始し、さまざまな取り組みによる環境意識の啓発活動を実践していることや国内外で活動が評価されていることは、大変すばらしいことです。

2017年度は、エネルギー使用量が大幅に増加したため、省エネへの取り組みの周知徹底と合わせて、エネルギー削減計画等の実施状況の点検・確認を行い、使用量を削減しました。今後も継続的な省エネ活動の取り組みと教職員及び学生の意識のさらなる醸成を目指し、エコキャンパスへ向けて様々な行動計画を継続的に実施するなど、より一層、環境負荷の少ない美しいキャンパスづくりに取り組んでまいります。

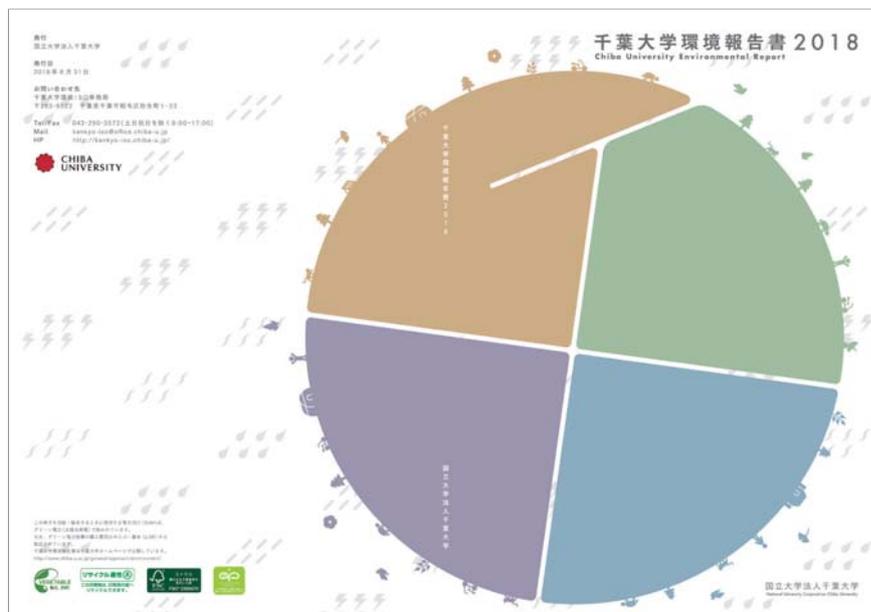
松下博行 施設環境部長  
（環境管理責任者＜事務系＞）



## 本報告書のデザインについて

「千葉大学環境報告書 2018」では、千葉大学の環境活動や自然に親しみを感じてもらえるようなデザインを目指しました。表紙は、「千葉大学の4キャンパスが一丸となって環境活動に取り組むことによって、大学全体の『環境』の調和が保たれている」というイメージをもとに作成しました。本文も、落ち着いた色づかいや行間・レイアウトの工夫によって読みやすくなるよう心掛けました。

デザイナー：川野辺晏実、佐藤謙治  
(大学院融合理工学府博士前期課程  
創成工学専攻デザインコース)



この環境報告書は本学教職員・学生をはじめとした沢山の方々のご協力により作成されました。

## デザイナー

川野辺晏実、佐藤謙治

## 取材・執筆等協力者(敬称略・五十音順)

### 教職員

相場博明、朝井理香、今関文夫、上野武、岡山咲子、加川夏子、加藤颯、金田平太郎、倉阪秀史、鮫島隆行、諏訪園靖、竹内茉莉子、徳久剛史、中村一樹、西田直海、西田芳弘、廣瀬裕二、正木治恵、松下博行、三島孔明、柳井重人、柳澤章、山田豊和、大和政秀、ヨサファット・テトオコ・スリ・スマンティヨ、米村千代、米元雄一

### 西千葉・亥鼻地区環境ISO学生委員会

浅輪光、東裕介、荒井奈々、石尾朔歩、石塚郁海、伊藤みるき、上田幸秋、岡桃菜、落合優衣、加藤雅大、木野一貴、小出ひなた、河野仁星、小島菜摘、崎山嗣舜、佐生拓実、志賀萌花、重留拓輝、武田壮、田中ひかる、田中真由、富岡花野、永富芳英、中原雛子、林田裕紀、菱田朋佳、松森佑太郎、平山裕之、逸見るな、前田遼太、丸山達也、三浦菜摘、望月天斗、森川恵介、森田航平、水野優里香、宮本莉緒、八代慈瑛、山口逸平、渡邊道哉

### 松戸・柏の葉地区環境ISO学生委員会

石川里桜、犬竹伊織、上村真衣、大塚朱里、佐々木圭、滝沢友莉子、前田理沙、村田理沙、矢田優佳

### 一般学生・院生

カオディー・パツラーワン、新谷有希奈、高橋穰太郎、千葉敦、長谷川雅人、日隈壮一郎、嶺康平

### その他

青木知葉、NPO 法人環境ネット、沖野好規、加藤三郎、株式会社京葉銀行、株式会社近藤商会、株式会社ジャパンビバレッジホールディングス、熊谷真、佐々木誠司、佐藤万寿夫、中村敏彦、林功、福田昌代、三菱製紙販売株式会社、吉田憲司、吉成唯、渡邊貴臣

## 編集担当者

### 環境報告書 2018 編集部

浅輪光、小出ひなた、志賀萌花、田中ひかる、田中真由、三浦菜摘、森田航平、渡邊道哉

### 環境ISO企画委員会

秋田典子、上田幸秋、上野武、内赤尊紀、岡山咲子、倉阪秀史、佐々木正浩、鈴木雅之、諏訪園靖、関英徳、豊川斎赫、能川和浩、野田勝二、林亨、松下博行、丸尾達、宮尾眞智

### 環境ISO事務局

荒木笙子、小原清香、竹森真弓、二瓶麻衣、宮尾眞智